

寺報

# 傘かえで

No. 5

発行

遍照山慈光寺  
久慈市大川目町22-6  
TEL 55-2660

編集 田表永七

## 境内整備計画策定へ

### 慈光寺整備委員会発足

位牌堂建立後の慈光寺をどのように整備していくかは、昨年末課題となっておりました。

さる五月二七日、「慈光寺整備委員会」が発足し、いよいよ、慈光寺の境内を整備する計画を策定することになりました。

整備委員会は、一口名の委員で構成され、委員長に米内肇氏、副委員長に吉田幸吉氏と青名畑西蔵氏を選出しました。整備計画は、今後、いくつかの手順を踏んで進められますが、その骨格は、次

## お経に親しむ

3

開經偈 (有難き經法を拜讀し、心に深く領解し奉らむとする心にて)

無上甚深微妙法 百千萬劫難遭遇

我今見聞得受持 願解如來眞實義

無上甚深微妙の法は、百千萬劫にも遭ひ遇ふこと難し、我れ今見聞して受持する事を得たり、願はくは如來の眞實義を解せん。

## 時宗総本山参拝旅行

6月22日～25日の3泊4日

檀家のみなさん待望の檀家親睦研修旅行は、さる六月六日に参加申し込みがしめ切られ、三九名が参加することになりました。昨年は、位牌堂の建立もあつて延期された経緯もあつて、今年はずいぶん早くの参拝が実現し、早くからあがっております。今回の旅行は、「時

宗総本山参拝・伊豆箱根周遊旅行」として計画されており、旅行の目玉として期待を集めているのは、本山遊行寺での一泊と、早朝勤行参加の計画です。また、石廊崎、天城峠を経て、修善寺温泉泊や十国峠、箱根、横浜ベイブリッジ等の観光コースも人気を集めております。なにはともあれ、安全で楽しい旅行でありますようお祈りするとともに、写真等による事後報告も期待したいものです。いつてらっしゃい!!

- の通りです。
- 1、本堂屋根 銅板葺替 (最重要)
  - 2、唐表屋根 銅板葺替
  - 3、本堂根柢修正・旧位牌堂改修
  - 4、裏庭・池改修
  - 5、観音堂新築
  - 6、水道補修
  - 7、車道改修
- 整備計画を策定するに当たっては、専ら内家等の意見を聴きながら、整備委員会で検討されて行くこととなります。
- この境内整備に見込まれている予算は、およそ六〇〇万円、先の位牌堂建立

の際の残金その他が充てられます。慈光寺整備委員会の委員は、次の通りです。

委員長	米内肇
副委員長	吉田幸吉
委員	青名畑西蔵
委員	竹花平治
委員	藤森一郎
委員	外里三男
委員	馬内栄寿
委員	藤森重喜
住持	副住持
副住持	取
取	取

# 慈光寺百景①



## 念仏百万遍の修行に 熱が込もる読経会

慈光寺読経会(会長米内賢吉氏)では、本年度から、修業内容に、「百万遍念仏」をとり上げて、修業にいらしていただきます。

日常のおつとめの読経の後、百万遍念仏の音頭のとおり方を修業するものです。  
指導に当たっている副住取さんは、

「地域でお念仏をあげる際の音頭とりを育てたい」と話しています。

読経会では、新会員の入会を待っています。

### 「寄進」の「披露」

位牌堂本尊仙天蓋 藤森重喜氏  
屋根改修資金 三〇万円 全

### 傘かえで

山門から本堂正面に向かう道の右側に、大きな傘を広げる。曲がりくねった太い幹が、風雪に耐えて来た長い歴史を物語る。

樹種 カエデ科オオモミジ  
胸高周 二、九〇メートル  
樹高 三、八〇メートル  
樹令 不明

久慈市指定 天然記念物  
久慈市教育委員会  
昭和五五年一月一日指定

## 読者の声

拝啓  
「寺報」を拝読して、良い報書だと思えます。つきましては、私の感想として、「般若心経」の一節をどこかに差し入れてあれば、もつと楽しく読めるのではないのでしょうか。

たとえは、  
心無罣礙  
意「サラリサラリと」こたわりなく生  
読「心に罣礙無し」  
「罣礙」という言葉は、あまり聞き慣

## みんなの文芸

霊刹 光(靈驗杓の寺光)  
溪月作  
法灯の慈光遍く照しつつ  
日夜わかたぬ御救ひの弥陀  
阿弥陀仏遍く照し法灯の  
救ひ求むる慈光寺の鐘  
靈妙の弥陀が法灯頼りつつ  
聽て浄土は老いらくの夢

れない言葉ですが、仏教語の一つで、「さまたげ」とか「こたわり」という意味だそうです。  
ですから、「心無罣礙」とは、「心にこたわりがないこと」……このように、仏の言葉を広くみなさまにお伝えする「寺報「傘かえで」でも良いと思います。

お寺様の説教を子供の頃よく聞きましたが、今は、なつかしく思い出す年になりました。  
右は、「傘かえで」についての私の感想です。増々の御健勝のもとに、良き楽しいやさしさのある寺報をお待ちしております。 仲小路 大下文香

山門をくぐるや右の鐘楼に  
影をぞ潜む城跡の見ゆ  
杉並木歴史ぞ告ぐる参道の  
昼なほ暗らむ木漏れ日もなき  
勤行の鐘の音響く城跡に  
放求浄土を告ぐる寂しき  
参道の片方に流る細流は  
古城名残りの濃跡と聴く  
以上七首は、新町在住の 切金武  
男さんから寄せていただきました。  
みなさまの寄稿をお待ちしております。